

「環境教育」に関する秋田県の主な事業

こどもエコクラブ支援事業 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/47640	こどもエコクラブの登録、活動、コンクールの参加等を支援するほか、新規会員に対し秋田県オリジナルパンダナの提供や、こどもエコクラブ全国フェスティバル受賞メンバーの旅費の負担をします(子ども4名分まで)。
学校環境教育支援校 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/54669	全県から応募のあった小・中学校から10校程度を学校環境教育支援校として指定し、環境教育に必要な器具類を3万円程度まで提供します。
観察・実験器具の貸し出し https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/46590	環境に関する学習で活用できる観察・実験器具等を貸し出します。貸し出しにかかる費用は、送料等を除き無料です。貸し出しできる器具はリンク先を御覧ください。(例:二酸化炭素濃度計、デジタル照度計、pHメーター、たもあみなど、約50種類)
あきた環境学習応援隊 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/36470	環境教育に関する講師の派遣や教材の提供、環境学習会や施設見学の受け入れなどを行っている行や団体を紹介しています。
地域の環境活動支援事業 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/43063	市町村、学校及び住民団体等が主催する講演会や学習会等に、環境保全団体・環境保全に関する講師を、派遣料・交通費無料で派遣します。理科や社会科、総合的な学習の時間の授業等でも御活用ください。
環境大賞 https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/38645	団体・学校や教育関係機関・個人で行っている、他の模範となる環境保全活動を知事表彰しています。
あきたエコ&リサイクルフェスティバル https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/38647	9月上旬にアゴラ広場、秋田駅前大屋根通りで行われるイベントです。ステージイベント、出展ブース、体験コーナー等で、楽しみながら環境やエコについて学ぶことができます。



ストップ・ザ・温暖化キャラクター
マスクットキャラクター
「あすびー」

令和2年度 登録クラブ一覧

32クラブ3,024名(令和3年2月28日現在)

1 秋田県立秋田南高校中等部自然科学部(21名)	2 秋田市立飯島中学校生徒会執行部(12名)
3 秋田大学教育文化学部附属中学校情報・科学部(74名)	4 あきたみどりフレンド(20名)
5 浅舞小学校たいよっこエコクラブ(262名)	6 イオン秋田中央チアーズクラブ(9名)
7 イオン東北(株)チアーズクラブ(46名)	8 井川義務教育学校自然観察クラブ(9名)
9 大館市立十二所保育園(32名)	10 大館市立成章小学校(73名)
11 角間川小学校エコクラブ(74名)	12 こひつじこクラブ(44名)
13 サン・パティオこども園こどもエコクラブ(58名)	14 神代小学校エコクラブ(155名)
15 せいれいエコクラブ(89名)	16 醍醐小学校キラリエコクラブ(135名)
17 チビツクラブ(90名)	18 土崎港店イオンチアーズクラブ(20名)
19 どれみ保育園エコクラブ(80名)	20 長木っ子(141名)
21 にかほ市立平沢小学校(290名)	22 にしだてエコクラブ(30名)
23 西目シーガルエコクラブ(290名)	24 西目中理科クラブ(7名)
25 ひろおもてエコクラブ(5名)	26 美郷中学校総合科学部(14名)
27 森の子エコクラブ(37名)	28 湯沢南中学校自然科学部(8名)
29 横手市立雄物川小学校(341名)	30 横手南小学校(532名)
31 横堀こどもエコクラブ(22名)	32 わくわくエコ工房(4名)

発行編集 秋田県生活環境部温暖化対策課(秋田県こどもエコクラブ事務局)
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
TEL: 018-860-1560 FAX: 018-860-3881
E-mail: en-ondanka@pref.akita.lg.jp



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この冊子は1,000部印刷し、1部44.00円です。



こどもエコクラブ 活動報告集2020

こどもエコクラブは、幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。令和2年度はコロナ禍のため、思うように活動できないクラブも多かったのですが、秋田県で32クラブ、3,024人(令和3年2月28日現在)のメンバーが登録し、環境に関わる活動を行いました。



この報告集は、各こどもエコクラブから今年度行った活動について報告をいただき、それらをまとめたものです。報告には、みなさんの今後の活動の参考となるところがたくさんあります。

また、全国の優秀な活動をまとめた壁新聞も掲載しています。これからの活動がさらに広く深くなるための手助けになれば幸いです。

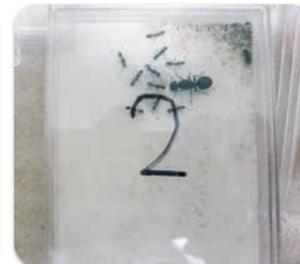
活動紹介

1 秋田県立秋田南高校中等部自然科学部(秋田市) 令和2年度環境教育支援校

今年度は22人で活動しています。今年度は、これまで続けてきた葉緑体と植物の器官とのつながりについての研究や猿田川に生息する微生物の研究に加え、アリの餌と巣の構造による生態変化の関係などに新たに挑戦しています。今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、研究発表会が中止になり、また野外活動の回数も減りました。しかし、協力して研究を進めています。これからも「科学する心」を大切にして活動していきたいと思えます。



葉緑体量の測定



飼育中のアリ

2 秋田市立飯島中学校生徒会執行部(秋田市) 令和2年度環境教育支援校

飯島中学校生徒会では今年度、「緑化プロジェクト」に取り組みました。この活動には、全校生徒に自然の大切さを感じてもらい、学校の環境を良くする、地域貢献をするという3つのねらいがあります。ボランティア活動として実施した花の苗植え作業には、多くの生徒が参加し、花を植えたプランターは地域の施設に設置してもらったことで、地域の方々に喜んでいただくことができました。来年度も活動を継続し、より多くの方に喜んでいただきたいと考えています。



花の苗植え作業には多くの生徒が参加しました。



生徒会執行部員が地域の施設にプランターを配布しました。

3 秋田大学教育文化学部附属中学校情報・科学部(秋田市) 令和2年度環境教育支援校

私たちは今年度もグループ研究に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症予防のために、時間や活動場所に制約があり、十分な研究ができませんでした。また、理科研究発表会や例年開催される秋田大学の先生による講座も中止となりましたので、部内で研究発表会を開催しました。

部内の研究発表会では、研究の構想や途中経過の発表などもありましたが、スーパーボールの製作、納豆菌やシャボン玉、ミドリムシ、スズメバチ、校内の池の水質に関する研究など幅広い内容が紹介され、自然との関わり方を考える良い機会となりました。



部内の研究発表会から

5 浅舞小学校たいよっこエコクラブ(横手市) 令和2年度環境教育支援校

浅舞小学校は、全校児童260名で「ひまわりプロジェクト」に取り組んでいます。地域の方々にも協力していただきながら、ひまわりの種まきや水やり、除草をします。そして収穫した種から作った「ひまわり油」を朝市で販売し、その収益で地域の老人福祉施設にフラワーアレンジメントを寄贈しています。また種をカラスに食べられた昨年の反省を生かし、今年は紙ポッドで苗を育てて植え付けました。しかし、なぜか畑の場所によって生育に大きく差が出たばかりか、できた種を小鳥に食べられてしまうというアクシデントにも見舞われ、昨年度の半分の58kgしか収穫することができませんでした。栽培活動の難しさや、収穫の喜びを実感した一年となりました。



6 イオン秋田中央チアークラブ(秋田市)

私たちは、小2～小6のメンバーで活動しています。毎年、水質調査と同時に周辺のゴミを拾いゴミの内容も調査したり、秋田県の野菜収穫体験や白神山の植樹体験にも毎年参加しています。また「環境の達人」にもお世話になり、環境について楽しく学んでいます。2020年はコロナ禍の為「お家でチアーズ」として各自が気になることを調べています。今年度の壁新聞になるので、楽しみです。



ソーラーパネル じゅんさい摘み取り体験 水質調査

7 イオン東北(株)チアークラブ(横手市)

今年度は感染症のため、活動がほとんどできませんでした。11月に入り、家族での活動ができるようになりました。11月は「商店街すごろく」、11月から12月にかけて壁新聞づくりのために、兄弟や同じ学校同士2～3人で集まり、作成しました。テーマはSDGs12番目の「作る責任使う責任」から、買い物のときに見つけたマークについて学びました。もっといろいろなマークがあるので、見つけたら調べたいです。



12 コレッコクラブ(秋田市)

3～5歳児44名の子どもたちで活動しているこひつじこクラブ!今年で2年目になります。エコクラブのパンダナがお気に入り、パンダナをすると、エコパワーアップ!!「せんせー、こども拭いたほうがいいんじゃない〜」「揃えたほう気持ちいいよね〜」と目を輝かせて、お掃除活動しています。雑巾がけも上手になりました。夏季は、地域のゴミ拾いや畑での野菜栽培にも取り組みました。今年はお掃除活動や消毒等が主になりましたが、活動を通して「きれいになるって気持ちいい」という体験や心地よさを感じることでエコ活動への育みに繋がっているのではないかなと思っています。子どもたちとエコについて考え話し合う機会を大切に今後も活動を深めていきたいと思っています。



ころばないでぞうきんがけができるようになったよ ほんのせいりせいとんするよ いすのあしもきれいにするよ バラバラになったおもちゃをみんなでそろえたよ

13 ガン・パーティオこども園こどもエコクラブ(秋田市)

年度がスタートした4月から、年長組では週1回の「絵本の日」に、森や木の実などを題材にした絵本を人数分(20冊)そろえ、読んでみたい本を選んで読み込んできました。7月、みんなでバスに乗って太平山自然学習センターに出かけ、付近の森林を探索し、りすが食べた松ぼっくりに大興奮、セミの抜け殻を大発見…と、「自然の不思議」を満喫しました。その夜は人生初、親元を離れてのお泊まり会。友達と枕を並べて朝までぐっすり。



8 井川義務教育学校自然観察クラブ(井川町)

今年度も「井川の水質調査」を行いました。この調査は昭和60年から30年以上に渡って本校に受け継がれてきたもので、その調査結果は井川の水質の変化が分かる貴重な資料となっています。この他にも、学校の近くにある日本国花苑での「自然の宝探し」や「ネイチャーゲーム」などを行い、たくさんの自然に触れ合いながら楽しく活動することができました。



みんなで協力して水生生物を採集しています。 ふるさと川は今年も「きれいな水」でした。

9 十二所保育園エコクラブ(大館市)

「アルミ缶とペットボトルキャップをいっぱい集めて中学校に届けよう!」という目標をみんなで考え、子ども達と一緒に取り組みました。回収BOXを用意したことで、子ども達から家の人に「いっぱい集めて配達するんだよ」「花植えるのに(プランター)なるんだって」等と話す姿が見られ、エコクラブを通して、親子のコミュニケーションと笑顔の関わりが増えたように思います。半年間で集まったペットボトルキャップは約26キログラム!地域の中学校へみんなで手分けして運んだりオセロゲームを手づくりしたりして活用しています。小さな資源もたくさん集まると大きな力になることを感じ取りながら、これからも自分達にできるエコを生活や遊びに取り入れていきたいと思っています。



花壇で育てた花を使ってジュースや料理を作って友達と一緒に遊んだよ。 「今月もいっぱい集まったぞー」地域の中学校に届けたよ!

10 大館市立成章小学校(大館市)

今年度も、全校児童で枝豆栽培と収穫を行いました。より多くの方に喜んでいただけるよう昨年度から栽培品種も増やし、長い期間収穫できるように工夫しています。枝豆を使った児童考案のオリジナルホットドッグ「成章ホワイトドッグ2020」も大好評でした。また、親子で行うふるさと学習(9月)では、地元企業の協力のもと、リサイクルの仕組みを学ぶためにゲーム機や携帯電話を分解する体験を行いました。ほかにも、毎春学校玄関前につくられるツバメの巣の世話や観察、通学路のクリーンアップなど、児童の自主的な活動も立ち上がりしました。これまでのさまざまな活動が、成章っ子の環境への関心を高めています。



レッツ!リサイクル体験 通学路のクリーンアップ

11 角間川小学校エコクラブ(大仙市)

角間川小学校エコクラブでは、全校74名で自然に親しみ、身の回りの環境を守る活動に取り組んでいます。今年も全校で学校花壇やサツマイモ畑、緑のカーテンの植物栽培に取り組みました。花壇の草取りをしたり、縦割りグループで協力してサツマイモを育てたりして、植物を育てる喜びを味わうことができました。収穫したサツマイモは、地域の福祉施設に配り喜んでいただきました。毎年行っていた学校近くにある川港親水公園のクリーンアップは、コロナ禍で行うことができませんでしたが、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。今後もこのような活動を通して、自然や地域を大切にしていこうとする気持ちを育てていきたいと思っています。



花壇の草取りをしています。 今年もたくさん収穫できました。

14 神代小学校エコクラブ(仙北市)

令和2年度環境教育支援校

本校では、全校児童155名が「花のいのちを育む活動」になく取り組んでいます。マイフラワーのペゴニア、ワンチームフラワーの全校花壇の世話を縦割り班でがんばりました。3年生のジャンボひまわり、4年生のひまわりロードも代々受け継がれています。3年生は種から大根を育てイブリ大根づくりに、5年生は神代米づくり、6年生は秋田内陸縦貫鉄道から楽しめる田んぼアートに地域の方々と協力して取り組みました。これからも自然の豊かさと地域の方々の協力に感謝しながら、エコ活動やSDGsの取り組みを広げたいと考えています。



毎朝交代で花のお世話 ひまわりロード 田んぼアートに挑戦

16 醍醐小学校キラリエコクラブ(横手市)

令和2年度環境教育支援校

醍醐小学校のキラリエコクラブです。今年度は、県の事業を活用して完成した中庭の「サ・池」に水棲植物が育ち、クロメダカやヤゴが繁殖するとともに、生き物観察に親しむ児童がたくさん見られました。池に隣接する1・2年生の教室の外には、アサガオやフウセンカズラのグリーンカーテンを作り、水辺の環境づくりが一層進みました。池の完成をきっかけに、野外でのリコーダー演奏会などの取組も行われました。また、国道から見える花壇には「人権の花運動」の植栽活動が行われ、全校児童が豊かな環境づくりに参画・貢献した一年間でした。



中庭のリコーダー演奏会 人権の花植栽運動 成長途中のグリーンカーテン

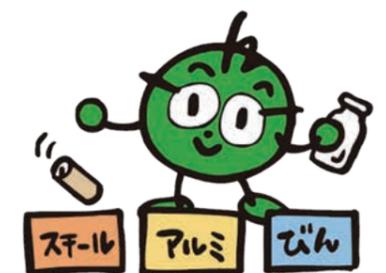
17 チビッコクラブ(秋田市)

毎日のように「ワクワクさんやりたい!!」と年中クラスのリクエスト。ワクワクさんとは、廃材を使っての自由な制作遊びのことです。園内に出る廃材を利用していましたが、今ではおうちの方からもたくさん協力をいただいています。自分の作りたいイメージに近づけるためにアイデアを出し、友達と相談したり協力し合ったりするようにもなってきました。アイデアいっぱいの完成した作品で遊ぶあそびは最高!!子どもたちの宝物です。



19 どれみ保育園エコクラブ(大仙市)

どれみ保育園は、保護者や地域の方たちからのご協力を得て、集まった資源ゴミの分別を頑張っています。今年は、回収業者さんのご厚意により自分たちが分別した資源ゴミが、その後どうなるのかを直接見学する機会にも恵まれました。自分たちの目で見学できたことにより「また頑張るぞ」と、友達と話している姿が印象的でした。身近な活動からエコの意識が高まっていることが嬉しいです。



20 長木コ子(大館市)

今年度もエゾタンポポの群生地の発見を契機とした「エゾタンポポプロジェクト」を継続して実施しました。

今年度の特徴は、5年生が絶滅危惧種の学習を通し、保護活動の大切さに気づき、中庭にある校章花壇に植えられているエゾタンポポに、今以上に興味を持ってもらおうと、啓蒙活動を行ったことです。また、1年生は自分たちが育てたアサガオを最後まで生かそうと、クリスマスリースづくりを行いました。



21 にかほ市立平沢小学校(にかほ市) 令和2年度環境教育支援校

児童会本部委員は玄関ホールでプルタブとエコキャップの回収活動を行いました。環境委員は節電を呼び掛け、調べた結果を昼の放送で紹介したり、パソコンルームや金魚の水槽を掃除したりしています。夏に設置されたエアコンや冬季に使用しているストーブは、換気を行いながら設定温度を決めて使用しています。他にも、廊下照明の節電をはじめ加湿器の弱運転、週末の電源OFFなど、省エネ活動に取り組んでいます。



プルタブ回収

回収したプルタブとエコキャップ

26 美郷中学校総合科学部(美郷町)

今年度も、これまでの研究を引き継ぎ、トミヨ属植物型、通称「ハリザッコ」の研究を継続して行いました。学校にあるピオトープでの個体数調査では、その結果を体長や雌雄ごとに集計したり、水質検査結果との関連を調べたりして、生息環境の変化を観察しました。また、町内にある湧水でのハリザッコの生息状況や水質調査も行っています。長年にわたり調査した結果から、湧水の環境変化を捉え、ハリザッコの生息環境の保全に役立てています。



ピオトープでの個体数調査

紙漕座清水での水質調査

27 森の子エコクラブ(横手市)

大森小学校では、5年生37人を中心に取り組んでいます。今年度は春に学校花壇・観察園の植え付け作業、夏に保呂羽山少年自然の家での自然体験学習、秋に稲の収穫とクリーンアップ活動を行いました。クリーンアップ活動では、「笑顔でクリーンアップ活動」をテーマに地域をきれいにしようと、縦割り班グループで全校児童が協力して行いました。このような活動を通して、自然環境を大切にしようとする気持ちを育てています。



地域の方々と一緒に田植え

笑顔でクリーンアップ活動

22 にしごエコクラブ(大館市)

「自然を大切にしたい 自然の営みと向かい合えた1年で
そんな気持ちで畑を舞台に15種の野菜づくりをしました
3mを超えるひまわりは子どもたちにとってはスカイツリー
空を覗きながら「気持ちいい〜」との感想も
苗植えの後 水やりと草取りの繰り返し いっぱい汗をかきました
いよいよ収穫 食べごろを探し 慣れた手つきでもぎ取ります
きれいに洗って給食さんへ おいしくお楽しみ〜す
土とふれあいながら野菜が育つ様子を目の当たりに
いろんな感覚が交差したようです

一人ひとりが大事にしたい 自然の営みと向かい合えた1年で
した



23 西目ソーガルエコクラブ(由利本荘市)

令和2年度は、コロナ禍においての活動となりましたが、西目小学校科学クラブでは年次計画通りの活動を送ることができました。大きな活動としては2つあり、1つ目の校地内親水公園の整備では、地域の西目環境保全の会の皆さんと一緒に池をきれいにすることができました。その後、地域の方からいただいたメダカの稚魚も放す活動もできました。

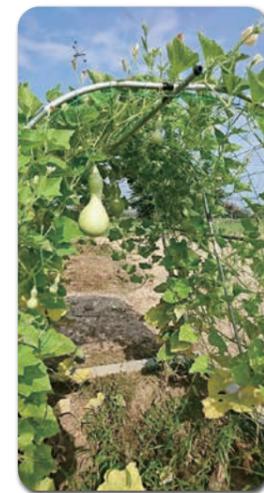
2つ目は、西目川の生物生息調査です。こちらも環境保全の会のみなさんの協力で行いました。魚や水中生物が命を育む大切な川と言うことを改めて認識できる活動でした。西目の水環境を大切にしていきたいと思えます。



親水公園整備

西目川生物調査

28 湯沢南中学校自然科学部(湯沢市) 令和2年度環境教育支援校



自然科学部の緑のカーテン

自然科学部では地域の環境をよくするための活動として、緑のカーテンの普及を目指しています。今年度の緑のカーテンはヒョウタンとフセンカズラで作りました。ヒョウタンの栽培は初めてでしたが、葉が大きく生命力の強い植物だったので、育てやすかったです。収穫したヒョウタンの実を使い、写真にあるようなランプを作りました。理科室前の廊下に展示して明るく照らしています。ヒョウタンの種子は、生徒にプレゼントして喜んでもらいました。



ヒョウタン ランプ

29 横手市立雄物川小学校(横手市)

雄物川小学校では、主に環境・ボランティア委員会が中心となり、全校児童でアルミ缶・プルタブ回収と花壇整備に取り組んでいます。今年度は、月に1回程度玄関ホールで回収を行い、委員会の時間にアルミ缶の圧縮や呼びかけ用のポスター制作を行いました。収益金を活用して、次年度は車椅子を購入し、社会福祉協議会を通じて地域の福祉施設に贈る予定です。また、花壇の水やりと草取りを、当番を決めて継続して行い、11月まで玄関前等を明るく彩ることができました。これからも、全校や地域のためになることを考えて活動していきたいと思えます。



24 西目中理科クラブ(由利本荘市) 令和2年度環境教育支援校

科学部として、酢酸ナトリウムの再結晶化が起こりやすい条件を研究し、市科学フェスティバルにて「使い捨てないカイロ」というテーマでブースを開く予定でしたが残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となりました。今年の研究では、10℃の変化で比べた場合、40℃から30℃に冷やしたときに最も結晶化が起こりやすいことを発見しました。また、音の衝撃による結晶化では、音の周波数が341.3Hzのときに結晶化する可能性が大きいことも見つけました。これらの結果を活用して、来年の科学フェスティバルでは、多くの方に楽しんでもらいたいと思います。今後も様々な実験に取り組み、環境に優しい技術の開発に挑戦していきます。



25 しろおもてエコクラブ(秋田市)

今年度は新型コロナに伴う休校のため、6月末のホタルの観察から始まり、8名の小規模構成となりました。コロナ禍での活動は手探りで、クラブで完結する内容としました。少人数であることを活かし、エネルギーに関する遊び要素のある実験を室内と近所の公園で行ったり、ザリガニ釣りをしたり、自由な活動が多い年でした。壁新聞も低学年も役割をもち完成させ、小学校のホームページにも掲載いただき地域にもお伝えできました。



写真について

(室内)
エネルギーに関する学習実験の写真です。簡単な講話の後、電磁石、手回し発電を頑張りました。普段の生活がいかに恵まれているかを実感しました。
(屋外)
前回のクリーンアップで水路にザリガニが多いことに気づき、別の場所で駆除も兼ねてザリガニ釣りを体験しました。ザリガニが隠れている場所の特徴や、気候のこと、生態系のことなども伝えながら楽しみました。

30 横手南小学校(横手市)

横手南小学校では、6年生が総合的な学習の時間に学校前を流れる横手川をテーマにした学習を行っています。7月には、横手川沿道と河川敷のクリーンアップを行ったり、横手川に生息する魚類を観察したりしました。「環境」というレンズから横手川を覗いたことで、児童一人一人が積極的に意識を働かせ、横手川を地域の誇りと考え、環境を守る大切さについて実感することができました。



横手川河川敷クリーンアップ



横手川に生息する魚類の観察

31 横堀こどもエコクラブ(大仙市) 令和2年度環境教育支援校

横堀小学校では、毎年5年生が地域の方の田んぼを借り、田植えや稲刈り体験を行います。今年度は田植え・稲刈り体験と理科「流れる水のはたらき」の学習を関連付け、川の見学に行ったり、用水路等の水を採取し、顕微鏡で水生生物を観察したりしました。子どもたちは目に見えない小さな生き物の存在に驚いた様子でした。身近な自然に触れ、自分たちが暮らす環境について考えた一年でした。



稲刈り体験

理科・水生生物観察

「全国エコ活コンクール」受賞壁新聞紹介

全国の子どもエコクラブや、環境活動をしている子どもたちのグループ、個人が全国のみなみにエコ活動の成果や感じたこと・気づいたことを壁新聞や絵日記にまとめて伝える「全国エコ活コンクール」。今年は、全国から113点の壁新聞と、251点の絵日記が集まりました。

今年の作品は、子どもエコクラブ全国事務局のウェブサイトに掲載されています(<http://www.j-ecoclub.jp/topics/info/202103032021.html>)。また、応募すると、以下の特典があります。全国の作品を参考にして、皆さんとどし応募しましょう！

- **特典1 活動をみんなにアピール**
応募された全作品を子どもエコクラブウェブサイトに掲載したり、全国各地で行われる環境イベント・広報活動等で展示したりするなど、みんなの想いをアピールすることができます。
- **特典2 ステキな商品をゲット!**
応募してくれた方に、参加賞としてメンバー手帳を1人1冊差し上げます。
- **特典3 子どもエコクラブ全国フェスティバルの参加**
応募作品の中から優れた作品に優秀賞が贈呈されます。受賞メンバーは、東京で開催される表彰式にご招待するほか、「全国フェスティバル」のプログラムに参加して、全国の仲間と交流することができます*。受賞メンバーのうち、4名分の旅費は秋田県で負担します。
*令和2年度はコロナ禍のため中止しました。



環境大臣賞

「子どもサステナブル新聞2020」
たいやエコクラブ



文部科学大臣賞

「オオタカの生態新聞」
いきものみつけファームin
松本推進協議会



消費者庁長官賞

「三ツ星エコラボ(研究室)新聞」
三ツ星エコクラブ



日本環境協会賞

「三重中学校・高等学校の科学技術部の活動」
三重中学校・三重高等学校 科学技術部



こくみん共済coop賞

「多様性の海へ」
南三陸少年少女自然調査隊



タカラトミー賞

「姫城中エコ新聞～学校全体でエコ活動に取り組む～」
姫ボラ



ミルクケア・エコまる賞

「稲の観察日記」
認定子ども園たから幼稚園
子どもエコクラブ



ミルクケア・エコまる賞

「エコしんぶん」
りんごキッズ

*大きな画像は、子どもエコクラブ全国事務局のページ(<http://www.j-ecoclub.jp/topics/info/202103032021.html>)を御覧ください。



県内壁新聞紹介(全国エコ活コンクール応募作品)

コロナ禍にも負けず、秋田県からも、集まったメンバーと地域の人たちが元気にエコ活動(エコロジカルあくしょん)を行っている姿を紹介する壁新聞が集まりました。メンバーが感じたこと、気づいたこと、秋田県のこれからについて思ったことなどが、とてもよく伝わってきます。

イオン東北(株)チアーズクラブ



子どもたちからの
アピール
ポイント

・SDGsについては聞いたことがあり、少し知っていたけど、自分がやっていることが含まれていると知り、うれしかった。これからは続けていきたい。
・いろいろなマークを見つけて大人に知らせたり、自ら使うことで、もっと広がって、地球が住みやすくなるといいなと思う。
・カエルって……そうなんだ……身近でカエルを見つけて調べてみたい。

サポーターからの
メッセージ

小学生にはSDGsやエシカルということは難しいとも思いましたが、少しずつ学校やお店で目に見えるようになってきている。大人も一緒に読んでほしいと思ったので、家族を巻き込んでの新聞づくりになりました。SDGsの取り組みは全国最下位(出典:ブランド総合研究所「都道府県版SDGs調査2020」)なので、もっとみんなに知ってほしいと思いました。

ひろおもてエコクラブ



子どもたちからの
アピール
ポイント

ひろおもてエコクラブの活動には、ホテルのかんざつ、ザリガニつり、広面の三吉神社の子どもぼんでんなどがあります。今まで知らなかったことを知ることができ、楽しいです。これからは広面のことについていろいろなことを見つけてみたいと思います。

サポーターからの
メッセージ

今年は新型コロナウイルスによる休校から始まり、活動開始できるかの不安がありました。新規2名、継続6名の小規模な構成となりました。活動地域も学区内にとどめましたが、クリーンアップで側溝にザリガニがたくさんいることに気づき、急遽翌月、ザリガニつりを計画し、楽しいだけでなく、もたらす影響についても丁寧に伝えることができました。新聞づくりは、低学年であっても継続者が多く、作成の手順をわかっていて分担でき、それぞれの特技やアイデアを出せるようになってきました。